

## ちょうふ市民討議会 2012 第6回実行委員会議事録

日時 2012年7月3日(火) 19:30より  
場所 調布市文化会館たづくり 11階1103学習室

出席者 【実行委員】(敬称略)

阿部正幸(×) 榎本陽介(○) K. O(×) 梶原良介(×) A. K(▲)  
小峯充史(○) 小山晃一郎(×) 齋藤孝(○) 竹内一(×) 竹中富知男(○)  
田中八栄子(×) 谷口淳(○) 長谷川正(▲) 原島秀一(○) 平松明(○)  
廣瀬豊(×) 増田健治(○) 宮澤学(×) 若松正晴(○) 和田勝幸(×)  
安藤貴弘(○)

出席10名、遅刻・途中退出2名、欠席9名 計21名

出席者 【特別出席者・傍聴者】

—

【配布資料】 議事次第、全体スケジュール、各テーマ資料

1. 実行委員長挨拶 原島実行委員長
2. 出席者確認・特別出席者・傍聴者の紹介  
・上記の通り
3. 資料の確認・書記任命 書記：増田運営副専務

#### 4. 議題：

##### ① 前回議事の確認

- ・メーリングリスト上で回覧された議事録の通り

##### ② 今年の市民討議会について 原島実行委員長

- ・前回A.K委員から、「テーマ選定について何を一番重視するのか」という意見があった。その場では「市民目線を大事にしていきたい」と回答したが、再度考えメーリングリストにて自分の考えを配信し、本日資料としてお持ちした。
- ・課題解決型という部分については、課題に対しての直接ジャッジだけでなく、アイデアに対してのジャッジのいずれの場合もあると考えている。
- ・今年は行政の協力が得られない中スタートしているということを重く受け止め、討議会の有効性を行政へ周知していきたい。
- ・また、討議会参加者の方へ討議結果の行く末を報告するためにも、実行委員会を継続し、反映されているかどうかの討議結果の検証を行いたい。
- ・上記2つのためにも、政策立案の一助になるかどうかを大切にしていきたい。

竹中) 総論的なことは行政もやっているからあまり意味がないのでは。市民の身近な問題をテーマにしていく必要があると思う。

原島) ゆくゆくは市民自身が身近な問題を解決するために、討議会の手法を地域の中に落とし込みたいという想いはある。

出して頂いたテーマは全て市民目線なので活かしていきたいと考えていた。

ただ行政ヒアリング結果としては、受け入れは難しいと回答頂いている。

竹中) 行政はすぐ予算のことになる。本当は市民と一緒にボランティアでやるような討議結果になるテーマのほうがいい。

齊藤) 我々の取り上げてきたテーマについては行政も理解している。ただ、どういう方向で進めるかに市民と行政の相違があると考えている。

調布市も含めて行政は法律や条例で動いている。最も上位にあるのは国の法律であり、近年景観法というものが出来たが、調布市もそれに基づいて動き始めようとしているという話を聞いた。

行政がどういう方向性で施策を進めているかを知り、その上で行政と全く違う方向性をとるのではなく、市民目線でどう実現していくかの部分に対して討議会としての意義が出てくるのではないかと。

原島) 討議会が生き残っていくためにも、市民目線でテーマを掘り下げる、自治意識の向上といった部分は大事にしていきたい。

竹中) 政策立案の一助という部分は意識する必要はないのでは。討議会参加者がよか

ったと思うことが一番大事ではないか。

原島) 討議会に参加頂いた市民の方へ、討議結果を見える形にする必要があると考えている。それが政策立案の一助ということ。

竹中) 実行委員長に一任する。

原島) では、この内容を柱にテーマ選定から討議会、提言書までの実行委員会活動を進めていきたいと思います。

### ③ 5つのテーマについて 行政ヒアリング結果について

- ・ 地域で子育てする有効な方法について 増田運営副専務
  - ・ 行政としては待機児童に重点を置いて進めており、すこやかで育児不安が解消しきれてない問題も認識している。その上で、地域でのつながりといった部分は市民の中で解決して欲しい部分として考えている。
  - ・ 子ども基金は、来年の3月議会までに活用方法を決定する方針だった。ヒアリング後、討議テーマにできないか大島課長に動いて頂いたが、その後「上司からストップが出た」と回答頂いた。
  - ・ もしこのテーマを進めるのであれば、現場からも行政からも地域コミュニティーという声が出ていることを踏まえ、「子育て支援のための地域コミュニティー」のようなテーマにしていくといいのではないかと感じた。
- ・ 小さなコミュニティの繋がりを強化するためには 原島実行委員長
  - ・ 先ず行政の基本的な立場として、自治会に対して強制力を持たない。またこのテーマに関してはすでに取り組んでいる。そのため行政としては提言の受け入れが難しい。
  - ・ 総論では大事なテーマだが、行政は相当乗り気ではないと感じた。
- ・ 郷土愛を育む教育プログラム作成について 安藤運営専務
  - ・ 指導要綱にあり、すでに社会と道徳の時間に行なわれている。またその他にも様々な取り組みが行なわれている。内容については各学校単位に任せているため、教育委員会としては提言の受け入れが難しい。
  - ・ 市民団体等が受け皿となっていかなう分には、協力はできるとのこと。
- ・ 都市農業の推進 原島実行委員長
  - ・ 農地を残すことが本質ではあるが、討議会のテーマとしては壮大すぎる。その前段階の協議会の設置などを討議結果としてはという意見もあったが、もうすでに設置されているようだ。

- ・ 行政による買取についても、費用対効果の面から他の課題が優先されがちである。都内で農地を残すことは簡単ではない。

- ・ 品川道延伸化の必要性 小峯副実行委員長

- ・ 行政のスタンスとしては、都市計画で決定している事業なので、延伸化をすることが前提である。
- ・ 但し、着工するかについては別問題であり、他に優先すべき都市計画事業があるため、この先 10 年はこの計画が進むことがないだろうとのこと。
- ・ 地域住民とも良好な関係で話し合いができているので、出来ればそっとしておいて欲しいというのが行政の率直な見解。

- ・ 鉄道敷地利用

- ・ 他に課題はないかというところで、立体交差事業後の鉄道敷地利用についてのお話しを頂いた。
- ・ 「緑の歩道」にするという大筋は決定しているが、どのような歩道にするか、どのように市民が関わるかといった部分等で、アイデアを出して貰えればとのこと。

#### ④ テーマ選定について

原島) 基本的には 5 つのテーマ全てにおいて行政の受け入れは断られた形になった。そのような状況の中、5 つのテーマを進めていくか、あげて頂いた 19 のテーマの中から調査研究をやり直すか、街づくり事業課からの鉄道跡地利用にのってみるか、どうするか決めていく必要がある。

竹中) 行政よりも実行委員会においては、「討議会がどうあるべきか」のほうが重要ではないか。

原島) 政策立案の一助になるような目に見えるような結果を求めていく中で、行政の協力は不可欠だと考えている。

竹中) 行政がやらないことでも、市民の声として提案できればいいのでは。

原島) 過去 3 回を踏まえ、今年の討議会は市民の声を目に見える形で反映していきたい。今回のヒアリングにおいて実行委員会の知識不足は感じた。

齋藤) 今ある制度の中でどういう方向に進めていくかを定める上で、今の実態を知ることは、実行委員会として非常に重要。

竹中) 「品川道延伸」と「鉄道跡地利用」については、都市計画はもっと大きな視点で進めている話だから討議会からの提言は受け入れられにくいのでは。

小峯) 「鉄道跡地利用」は行政のほうから頂いている話なので受け入れて頂けると

思う。

竹中) 討議会でやるのであれば、具体的な提言をできるようなテーマにしないと意味がないのでは。

谷口) 「鉄道跡地利用」は現在の状況を行政からきかないと、実行委員会でどこまで提言できるのかが不透明。

若松) 何年も前から青写真ができてるものに、今年度中に形としてなんらかの結論を出せるのか。

平松) 行政に受け入れられないからといって、行政から提示されたテーマに迎合してしまうのもどうなのだろうか。

小峯) 「緑の歩道」自体は平成 17 年に決定しているが、鉄道跡地を市が借りるか、買い取るかも現在進めているような状況。そのような中、我々がテーマとして取り上げるのは、市民が鉄道跡地をどう活性化するか、維持管理等にどう関わっていくかといった各論に近いものになる。皆さんの心配されているような、すでに行政が決定している大枠をひっくり返すような話ではない。

A.K) テーマに対してイメージを問い掛けるのも、ジャッジしてもらうのも討議会だと考えているが、どちらにせよ実行委員会として討議会当日の方向性が一致している必要がある。「今年の市民討議会について」で合意形成したように政策立案の一助となるのであれば、それに沿って実行委員会を進めていく必要があるのでは。

長谷川) 無作為抽出をしてもらうためには、いい意味で行政とうまく付き合っていかなければならないのかなと思う。

原島) 継続していくために結果を求めていく中で行政を無視していくことはできないと考えている。もう少し皆さんとテーマを掘り下げたい想いもあるがスケジュール上時間がない。そのような中「鉄道跡地利用」の話を受けた。

A.K) 行政が求めているのであればそのニーズに答えるのも討議会であると思う。もう少しこの中で検討を進める選択肢があってもいいのでは。最終的にはテーマを 2 つにして折衷案のようにするのも考えうる。

原島) 前回、第一討議会の日程を 10/28 でお話しさせて頂いたが会場が押さえることができなかった。現状、10/7~8 になる可能性が高い。スケジュールの都合上、実行委員長としては今日この場で決めていきたい。

竹中) それであれば実行委員を辞退したい。

小峯) 討議会の開催ありきで決めなくてもいいのでは。

原島) 07/17 の実行委員会でもう一度話し合ひましょう。できれば次回でテーマを決めていきたい。

⑤ その他

—

5. 報告事項

—

6. 次回実行委員会開催日の決定

日時： 2012年7月17日（火）19:30より

場所： 調布市文化会館たづくり 11階1103学習室

7. 閉会挨拶

・時間の都合上割愛